

公益社団法人ガールスカウト日本連盟

2021年度

事業報告書



わたしが変わる。
未来が変わる。

2021年度 事業報告書 目次

ガールスカウト日本連盟 使命	2
ガールスカウト日本連盟 活動基本方針	2
ガールスカウト日本連盟 ビジョン2032	2
ガールスカウト日本連盟 2021 年度事業総括	3
事業実施報告	7
日本のガールスカウト運動100周年事業関連	7
教育プログラム	10
成人のトレーニング	14
組織と運営	17
会員	20
社会との関係	22
財政	27
民間助成金	29
世界連盟への寄付（2022年3月末時点）	29
他団体役員等就任状況	30

ガールスカウト日本連盟 使命

少女と若い女性が自分自身と他の人々の幸福と平和のために、責任ある市民として自ら考え、行動できる人となれるようにする。

ガールスカウト日本連盟 活動基本方針

ガールスカウトは少女と女性の視点に立って、より幸せな社会と未来の実現を目指し、リーダーシップを発揮できる人材を育成するとともに、社会に変化をもたらすチェンジエージェントとして行動します。

ガールスカウトは自らが行動していく運動です。日本では 100 年前から「自分で考え、行動できる女性」を育てるノンフォーマル教育に取り組んできました。ガールスカウトの少女たちは、人との関わりを通して、さまざまな役割と活動を経験していく中で、豊かな人間性を身につけていきます。そして、自分の人生を自分で切り拓く力をもった女性に育っています。

私たちのこれからの挑戦は「女性がその可能性を最大限に発揮できる社会環境をつくりあげていく」ことです。そのために、少女と女性の可能性を伸ばすことを妨げる問題に対して声をあげ、社会に変化をもたらす行動を積極的におこない、貢献していきます。

ガールスカウト日本連盟 ビジョン2032

ガールスカウトは、「すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会」を目指して行動する女性を育てる。

ガールスカウト日本連盟 2021 年度事業総括

2021年は、新しい戦略計画の下、また、次の100年に向けての1年目の年となる予定でしたが、コロナ禍の影響でこれまでにない困難の中での1年となりました。しかしながら、全ての会員が同じ方向を向き、一人でも多くの少女と若い女性にガールスカウト活動を通して成長の場を提供するために全力を尽くした年となりました。

2019年から検討を始め、2020年に会員の意見を可能な限り広く聞き、その結果を反映させた2021-2023年の戦略計画を採択し、ビジョン 2032 の達成のために取り組むべき課題を次のように 5 つに絞りこみました。

1. ねばならない意識が強い
2. 現代社会において、少女・女性が必要とする教育を、年代に合わせて適切に(質・量)提供できていない
3. 組織の運営や情報活用の方法が時代に適していない
4. 運動の仲間の減少が続いている
5. 社会に対してのアピール度が低い

これらの課題を、次の 2 点の方法で解決することとしました。

- 会員全員の力を合わせて取り組む
- 仕組みを検討する

特にこの 3 年間（2021-2023年）は、以下のことに取り組めます。

- ・「やくそくとおきて」にある価値観をより共有し、活動に生かすことを目指す
- ・会員間のつながり・情報共有を強化し、さらに関わる人を増やすことで、活動の活性化を目指す
- ・ICT 等の活用により、地域を超えて協力し合える仕組みづくりを目指す
- ・ICT 等の活用により、事務的作業の効率化などを促進する
- ・現在進んでいる会員獲得や都道府県連盟運営の成功事例をマネ(模倣)する文化の醸成をはかり、さらに、国内外のガールスカウトの取り組み、他団体の事例からの学びも促進する

これらの考え方を広く会員に周知するため、2021-2023年の戦略計画のパンフレットを作成し、全会員へ配布。折に触れて、パンフレットを活用したコミュニケーションを心がけました。

次に、各テーマに関する取り組みを総括します。

1. ねばならない意識からの脱却

日本連盟で取り組む全ての活動において「ねばならない」意識にとらわれずに活動することを目指しています。日本連盟だけでなく、都道府県連盟においても、何かを決めたり考えたりするときに「ねばならない」に陥っていないかをチェックするよう呼びかけました。これまでの「当たり前」を問い直すことには困難が付きまっていますが、この運動は、女性にとって、成長の機会を提供する運動であるだけでなく、言うまでもなく、少女と若い女性が、生涯にわたって成長し続けるために不可欠な成長の場である必要があります。その意味でも、一つの方法や見方にこだわることなく、柔軟に幅広く、そして異なる多様な価値観から物事を見る必要があります。2021年は、この意識を普及する年としました。

2. 現代社会において、少女・女性が必要とする教育を、年代に合わせて適切に (質・量)提供する

コロナ禍により、対面での活動が制限された一方で、オンライン会議システムの活用により、人の移動なく離れた場所とつながる教育活動が一層進みました。特に日本のガールスカウト運動100周年記念イベントとして取り組んだ国際ガールズメッセでは、都道府県連盟単位でレンジャー、ユース年代のメンバーを中心に構成されたユースメッセンジャーにより、海外連盟の会員との交流の場を都道府県連盟内の会員に提供したり、世界のジェンダー事情について知ったりする機会が創生されました。

オンライン会議システム活用のプログラムとしては、ガールスカウトカフェと銘打ち年間7回開催し、延べ628人が参加しました。年長部門以上を対象としたこのプログラムは、将来の進路に関係すること、ガールスカウトが世界組織であることを実感する内容、そして世界会議の様子を伝えるものまで多岐にわたり、幅広い関心事に対応し、かつ全国どこからでも参加できるプログラムとなり、今後の活用が期待されます。

持続可能な開発目標（SDGs）の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」を達成するために青少年時代から成人まで幅広く取り組めるオンラインプログラムを開発したほか、対面でのプログラムを完成させました。これまでにおこなった、高校生年代、大学生年代への調査結果からも、「ジェンダー平等」を推進するための教育活動は少女たちの希望であることは明らかです。このプログラムを指導者自身も安心して推進するために、指導者の学びの機会の整備も進んでいます。

指導者自身の学びの支援のために、オンラインのさまざまな方法を駆使し、トレーナー間の情報共有や学びを促進するシステムの整備も進んでいます。

中長期的課題を解決するための戦略委員会「教育プログラム・指導者養成制度の総合的見直し委員会」では、現プログラムに不足していることの洗い出しを始めました。戦略委員会「財政・組織中長期戦略検討委員会 中短期課題解決部会」においても、レンジャー、若い成人会員の活動活発化を目指した取り組みを始めました。

3. 現代に適した組織の運営や情報活用をおこなう

オンライン会議システム、オンライン情報共有システムの活用を促進することにより、従来かかっていた費用の圧縮が図られました。オンライン会議システムを利用した会議により、参加しやすさは向上したものの、一方で回数や時間が増えるなど生活とのバランスなどの問題も浮上し、より一層会議運営のスキル向上が求められています。

2020年に予定されていた世界会議は延期となり、2021年夏にオンラインでの開催となりました。このことにより、オブザーバーとして会議に参加できる人数が大幅に増え、日本からもユース年代を含めた7人のオブザーバーが参加しました。このメンバーが中心となり、日本の会員に対して世界連盟の動きを伝える活動に発展したことは、この運動の進む道を理解する人を増やすことにつながり、主体的に活動する人を増やすことに貢献したといえます。また、このことは、オンラインでの活動をうまく取り入れた事例であるともいえます。

日本連盟の特別個人会員の制度が始まりました。この制度を通じての協力者の確保を現実に進めていくための取り組みを始めます。

都道府県連盟、団、会員との情報伝達方法の革新にむけて準備を始めています。より早く、広く情報を共有することにより、より主体的にそれぞれの強みを生かし、

多くの会員の力を結集し、よりインパクトあるガールスカウト運動となることを目指します。

4. 運動の仲間の減少を止める

ガールスカウトが、「すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会」を目指して行動する女性を育てる団体として、社会にインパクトをより強く与えるためにも、仲間を増やすことは喫緊の課題です。団、県連盟での成功事例を互いに共有し、それぞれの実情に合わせて実行に移すための取り組みを進めています。2021年度の連盟長会議は、2020年度に引き続きオンライン開催とし、より広い範囲の都道府県連盟役員への参加を求め、都道府県連盟の成功事例の共有をおこないました。また、都道府県連盟役員を対象とした役職別カフェを開催し、役員間の情報共有の重要性を実感する機会となりました。

対面での活動が制限される年ではありましたが、それにもまして、成人会員に対する学びの機会提供は減ることなく、学び続ける指導者の数も増加しています。これは、日本連盟主催のオンライン研修の開催だけでなく、都道府県連盟の役員、委員およびトレーナーの努力の結晶であるといえます。

5. 社会に対するアピール力を高める

2019年から継続的に実施している女子高校生・女子大学生年代を対象としたジェンダーに関する調査と報告書の発行により、ガールスカウトは少女、女性の声を社会に届ける団体であるというアピールが進んでいます。他団体や、マスコミなどによる調査結果の引用をはじめ、ジェンダーに関する若者の意識を社会に伝えることを目的とした他団体のイベントへの登壇依頼などは、調査と報告書発行の成果であるといえます。ジェンダー平等を推進することが、社会の関心事となりつつある昨今の流れを追い風に、私たちが既に持っているリソースを基に発信力を高めていきます。2022年度には、そのためのチームを立ち上げます。同時に、これまでもまして、SNSをはじめとする発信に対する安全対策を強化し、会員全体での発信を目指します。2021年度に2回開催した「広報研修」では、39都道府県連盟162人の参加があり、アピール力を高める基礎固めとなりました。

ビジョンの実現に向けて、会員の力をより発揮できるよう、中期的にシステム変更も視野に入れ、検討を始めています。また、ガールスカウト運動が日本において持続可能になるために、日本連盟の運営方法・財政基盤の再構築のための検討を始めました。

日本のガールスカウト運動100年の取り組みについて

2020年は、日本のガールスカウト運動100年の年でした。そのために2016年に100周年事業5つのプランを発表し、その取り組みを進めました。100年の年が東京オリンピック2020の開催と重なったことから、2021年度中までの開催を予定していましたが、しかしながら、前述のように新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、その実施方法など変更を余儀なくされましたが、挑戦し続ける運動であるガールスカウト運動の担い手として、さまざまな工夫を凝らし当初の目標達成に向けて力強く前進することができました。

ガールスカウトの仲間を増やすために、その魅力を100万人に伝える「100万人とつながるキャンペーン」では、2016年から2019年の4年間で、約200万人とつながることができました。

社会を変えるチェンジエージェントを増やすための「コミュニティアクション チャレンジ100」では、毎年着実に応募者があり、チェンジエージェントが増えてきました。この取り組みは、2019年1月からは対象を広く会員外へ開き「コミュニティアクション チャレンジ100アワード」として再スタートしました。

100年誌『日本のガールスカウト運動100年の挑戦』の編纂では、100人を超える先輩諸姉から現役世代の物語を収録し、公立図書館、大学図書館等へ寄贈しました。

「ファンレイジング」では、2013年9月からマンスリー寄付であるみらい募金を募集し始め、2022年3月末の周年事業への寄付額は37,535,479円となりました。

2020年、2021年に開催を予定していた「100周年記念イベント」の一つで、少女、女性が「よりよい社会」を目指し発信する「国際ガールズメッセ」は、コロナ禍の影響により、2020年はオンラインでプレイベントという位置づけで開催。コロナ下においても国際的な側面を出すために、また、全国のガールスカウトが関われるようにするために、各都道府県連盟においてユースメッセンジャーを任命し、パートナー国との活動を取り入れるなど、オンラインツールを幅広く活用した取り組みを含めることができました。都道府県連盟内の年少部門にも100周年イベントへの参加の機会を創出したこの取り組みは、地元から離れて暮らしているメンバーが参画できる機会を生み出すことにつながり、後継者育成の一助となる活動でもありました。残念ながら、2021年度もオンライン開催となりましたが、社会で活躍する若い世代の方から国の中核に関わる人まで、幅広いゲストを迎え、『わたしの声から広がる世界～SDGsの「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」達成に向けて～』のテーマにふさわしい会を開催することができました。当日会場には、全国から寄せられたメッセージが展示されました。

東京オリンピック2020開催に伴い開催時期を2021年3月から予定していた「インターナショナルキャンプ」については、いよいよ2022年8月に開催を予定し、準備を進めています。

	<p>能條桃子（一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN代表） ビデオメッセージ：佳子内親王殿下 末松信介（文部科学大臣） 野田聖子（内閣府特命大臣） 小池百合子（東京都知事） 近藤春菜（ハリセンボン） ハイディ・ヨーキネン（世界連盟理事長） ブロンウィン・ヒューズ（アジア太平洋地域委員長）</p> <p>展示用メッセージ（モザイクアート） 1,140人 運営：実行委員 7人 ユースメッセンジャー107人、メンター54人</p>
	<p><ユースメッセンジャーの取り組み> 交流海外連盟：25連盟（58グループ） 各都道府県連盟1～3カ国とオンラインで交流会を実施。 主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外連盟とユースメッセンジャーで打ち合わせを進め、年長部門が各国におけるジェンダーについて抱える問題点などについて話し合える機会をもった。 ・海外連盟と両国の文化について知る機会をもった（年少部門も参加した都道府県連盟もあった）。 ・年長部門を対象にしたイベントを企画し、「me and them」を活用した勉強会の開催等をおこなった。 ・年少部門に対してジェンダー平等について考えられるオンラインイベントを実施した都道府県連盟もあった。 ・指導者のジェンダー平等に対する理解が進むための研修を企画し、都道府県連盟が指導者研修を開催したところもあった。

事業名	インターナショナルキャンプ “Discover WOW”
実績	<p>実行委員会18回 2022年8月に全国7会場で開催を決定 引き続き、2022年夏実施に向けて準備を続ける</p> <p>国際キャンプに向けて、参加者のモチベーションを高めるために、ガールスカウトカフェ インターナショナル編を実施（オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガールスカウトカフェVol.4 ～アワシャレーナイト～ 期日：5月16日（日）19時～21時 参加者：150人 （シニア63人、レンジャー26人、ユース年代13人、26歳以上48人） 運営：インターナショナルキャンプ全体実行委員会5人 スピーカー：海外のガールスカウト3人 ・ガールスカウトカフェVol.5 ～サンガムナイト～ 期日：7月10日（土）16時～18時 参加者：131人 （シニア53人、レンジャー34人、ユース年代11人、26歳以上33人） 運営：インターナショナルキャンプ全体実行委員会5人

<p>スピーカー：海外のガールスカウト3人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガールスカウトカフェVol.7 ～アワカバニャDay～ 期日：11月14日（日）10時～12時 参加者：108人 （シニア44人、レンジャー19人、ユース年代7人、26歳以上38人） 運営：インターナショナルキャンプ全体実行委員会5人 スピーカー：海外のガールスカウト3人 ・ガールスカウトカフェVol.9 ～パックスロツジナイト～ 期日：2022年2月26日（土）19時～21時 参加者：99人 （シニア44人、レンジャー20人、ユース年代5人、26歳以上30人） 運営：インターナショナルキャンプ全体実行委員会5人 スピーカー：海外のガールスカウト3人
--

事業名	100周年バッジ
実績	1,165枚（累計7,663枚）

事業名	100周年に向けた資金調達活動（ファンドレイジング）
実績	100周年事業への寄付 278,000円

事業名	100周年特設ホームページ（100周年周知拡大）
実績	新規情報を随時更新 Instagramでジェンダー平等実現100のコト、世界のあいさつ100を掲載 サイトビュー数：36,953PV

事業名	100周年記念表彰
実績	ガールスカウト運動への永年または顕著な支援をおこなった、ならびに日本のガールスカウト運動 100周年記念事業への支援をいただいた個人・団体・企業・機関等へ、「日本のガールスカウト運動100周年記念表彰」として感謝状を贈呈した。 贈呈件数：1,246件

教育プログラム

事業名	SDGsへの取り組み
実績	SDGsバッジ取得数 1,976個

事業名	SDG5の促進
実績	<p>Stop the Violence キャンペーン関連プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーの不平等に起因する問題について理解し、自らの権利を学び、同年代同士で、問題解決のために行動を起こせるようにする。また、自分や友達が差別や暴力に直面したときにそなえ、どうしたらいいか学ぶ。 ・バッジ取得数 VAVバッジ 161枚 STVバッジ 45枚（プログラムは2020年度に終了） ・国際女性デーイベントにて「ジェンダー」に関する女子高校生調査報告書2021に関する発表をレンジャーが担当。準備のための活動をオンラインで4回開催。 ・18歳～25歳を対象としたジェンダーに関する調査に関する実行委員会をユース年代で立ち上げ始動 ミーティング回数累計：13回開催
	<p>Free Being Me (FBM) 第2弾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム実施促進 ・バッジ取得数：大好きなわたしバッジ221枚、FBM行動編バッジ128枚 ・ダヴとの協働イベントの実施（25頁 他団体との連携参照）
	<p>GEバッジプログラムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインプログラム「わたしとみんな」GEバッジWEBイエロー ・対面プログラム「わたしとみんな 行動編」GEバッジ対面オレンジ ・対面プログラム「me and them 行動編」GEバッジ対面グリーン ・教材 ジェンダー平等実現を目指そう リーダーズガイド
	<p>オンラインプログラム「わたしとみんな」GEバッジWEBイエローへの取り組み促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが性別にとらわれることなく、自分の可能性に気づき、「自分らしく生きられる」ようになることを目指す取り組み 対象：小学校1年生～成人まで取り組み可能 ・バッジ取得数 GEバッジWEBイエロー 750枚 ・累計取り組み数 1,216回（YouTube再生数 2022年3月31日時点）
	<p>オンラインプログラム「me and them」GEバッジWEBミント取り組み促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定観念にとらわれず、多様性を認め合えるようになることや、性別を問わず自分の可能性を信じ、よりよい未来を構築していくことを目指す取り組み 対象：中学生～成人まで取り組み可能 ・バッジ取得数 GEバッジWEBミント 449枚 ・累計取り組み数 2,294回（YouTube再生数 2022年3月31日時点）

事業名	地区シニア部門事業			
実績	全国7地区において、以下のいずれかのテーマを選択しシニア対象事業を実施した ① me and them#ジェンダー平等を実現しよう ② VOICES AGAINST VIOLENCE みんなでつくる差別と暴力のない世界 ③ Free Being Me大好きなわたし ④ その他SDGsをテーマにした取り組み ただし「SDG5ジェンダー平等を実現しよう」を視野に入れたプログラム 参加者総数：374人（シニア170人、レンジャー37人、指導者167人）			
	地区（担当連盟）	期日	会場	参加者
	北海道・東北地区 （岩手県連盟）	11月7日（日）	オンライン	シニア 33人 レンジャー 3人 指導者 5人 合計 41人
	北関東地区 （長野県連盟）	9月19日（日）・ 20日（月・祝）	オンライン	シニア 40人 レンジャー 16人 指導者 51人 合計 107人
	南関東地区 （東京都連盟）	12月11日（土）・ 12日（日）	オンライン	シニア 42人 レンジャー 2人 指導者 40人 合計 84人
	北陸・東海地区 （岐阜県連盟）	2022年1月23日 （日）	オンライン	シニア 18人 レンジャー 6人 指導者 21人 合計 45人
	近畿地区 （大阪府連盟）	2022年1月9日 （日）	オンライン	シニア 14人 レンジャー 9人 指導者 20人 合計 43人
	中国・四国地区 （徳島県連盟）	9月19日（日）・ 20日（月・祝）	オンライン	シニア 12人 レンジャー 1人 指導者 16人 合計 29人
	九州・沖縄地区 （福岡県連盟）	12月4日（土）・ 5日（日）	オンライン	シニア 11人 レンジャー 0人 指導者 14人 合計 25人

事業名	レンジャー年代：全国キャンプ（野営）
実績	コロナウイルス感染拡大に伴い、オンラインにて実施 テーマ：仲間と一緒に！！目指せ防災マイスター 期日：9月18日（土）～9月20日（月・祝）

	参加者：レンジャー36人（20県連盟）、プログラムリーダー4人（4県連盟）、当日スタッフ6人（6県連盟）、実行委員4人、理事1人 基調講演講師：国立研究開発法人 防災科学技術研究所参与 首都圏レジリエンス研究推進センター長 平田直
--	--

事業名	レンジャー年代：全国事業（オンライン）
実績	レンジャーonlineミーティング our voices will change the world テーマ：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利） 期日： 事前学習：9月中旬～10月29日（金）（オンライン） 事業当日：10月30日（土）・31日（日）（オンライン） 事後活動：11月1日（月）～2022年3月31日（木） 参加者：レンジャー14人（12県連盟）、指導者14人、実行委員4人、理事1人 基調講演講師：京都あいこ助産院 助産師 渡邊安衣子

事業名	B-Pアワード
実績	受賞：8プロジェクト7人 プロジェクト名： 防護服プロジェクト みんなが生きやすい社会に（2件） for our future～ジェンダーバイアスのない社会へ ジェンダー意識を高めて世界へ羽ばたこう イツデモボランティア 防災ポーチを広めよう 2020年の私にできること ガールスカウトの力でコロナに負けるな！

事業名	国内交流事業
実績	申請数：5件 総参加者数：約700人

事業名	国際理解支援事業
実績	<海外研修渡航費補助> 新型コロナウイルス感染症のまん延の影響により海外への渡航は困難であるため募集中止
	<国際紹介状の発行> 2件（個人の留学による渡航）
	<国際交流申請> 2件（アメリカ連盟ウエストパシフィックとの交流）
	<招へい申請> 0件

事業名	Greener × Greener II
実績	・ 平和のための寄付金 10,000円 ・ Greener×GreenerIIバッジ取得数 299枚

事業名	オリンピックバッジ2020への取り組み
実績	・ バッジ取得数 1,431枚（累計 7,026枚） 取り組み期限：2022年3月末

事業名	防災・減災教育
実績	・ 防災・減災教育の促進 防災マイスターバッジ 705個 ・ KIZUNA Day取り組み促進 全国各地で実施 特別イベント 防災科学技術研究所との協働企画 「KIZUNA Day 特別イベント『親子防災科学教室』」の実施 期日：2022年3月12日（土）（オンライン） 参加者：約200人（79組） ・ Facebookでの発信 KIZUNA Line フォロワー数 1,515人

事業名	ミャンマー連盟との協働事業：Reach Out プロジェクト
実績	国際ガールズメッセにて、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに対する両国の取り組みについて発表をおこなった

事業名	ワールドシンキングデイ
実績	テーマ：私たちの世界、私たちの平等な未来 ～環境問題とジェンダーの平等～ 期日：2022年2月22日（火）周辺で実施 ・ WAGGGS発行活動パックの翻訳版の発行 ・ トレーナーセミナーの実施（15頁 トレーナー対象トレーニング参照） ・ 特設ウェブサイトの開設 FacebookとTwitterへのハッシュタグ投稿から、世界中のつながりを感じられる活動を集め、発信した ・ 世界連盟への寄付 29頁「世界連盟への寄付」参照

事業名	戸隠ガールスカウトセンターを活用した教育の実践
実績	期日：4月24日（土）～11月8日（月） （27頁 戸隠ガールスカウトセンターの管理運営参照）

事業名	教材等の出版・販売
実績	新規発行物 ・2022ワールドシンキングデイ活動パック「私たちの世界、私たちの平等な未来」～環境問題とジェンダーの平等～ ・ジェンダー平等を実現しようリーダーズガイド ・「ジェンダー」に関する女子高校生調査報告書2021 自分のからだ

委員会名	教育・指導者委員会
実績	33回開催（オンライン）

委員会名	SDG5推進委員会
実績	26回開催（オンライン）

成人のトレーニング

事業名	トレーナー対象トレーニング
実績	<p>トレーナーセミナー（オンライン） 運営者数：成人トレーニング委員会8人、理事1人 参加者総数：774人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー平等バッジ 期日：6月11日（金）20時～22時 参加者：39都道府県連盟145人 ・平和構築（計2回） 期日：7月3日（土）13時30分～16時 参加者：19都道府県連盟37人 期日：7月3日（土）19時30分～22時 参加者：18都道府県連盟39人 ・アドボカシー活動の支援（計4回） 期日：7月30日（金）20時～22時 参加者：18都道府県連盟39人 期日：7月31日（土）14時～16時 参加者：17都道府県連盟26人 期日：8月21日（土）19時～21時 参加者：21都道府県連盟28人 期日：8月22日（日）14時～16時 参加者：16都道府県連盟22人 ・若葉マーク：企画・計画の立て方（計2回） 期日：10月16日（土）19時～21時 参加者：18都道府県連盟37人 期日：10月24日（日）14時～16時

	<p>参加者：15都道府県連盟21人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップを育むために（計2回） <ul style="list-style-type: none"> 期日：11月12日（金）19時30分～22時 参加者：21都道府県連盟38人 期日：11月13日（土）14時～16時30分 参加者：19都道府県連盟39人 ・ワールドシンキングデイ2022（計4回） <ul style="list-style-type: none"> 期日：12月25日（土）14時～16時 参加者：26都道府県連盟39人 期日：12月25日（土）19時～21時 参加者：20都道府県連盟37人 期日：12月26日（日）10時～12時 参加者：23都道府県連盟41人 期日：12月26日（日）14時～16時 参加者：25都道府県連盟41人 ・SDGs 目標5達成に向けたプログラムとGEリーダー育成（計2回） <ul style="list-style-type: none"> 期日：2022年2月13日（日）14時～16時 参加者：26都道府県連盟53人 期日：2022年2月19日（土）19時～21時 参加者：36都道府県連盟92人
	<p>トレーナーの単元I（オンライン）</p> <p>期日：12月1日（水）～2022年3月31日（木）</p> <p>取得者数：167人</p>

事業名	子どものための人権教育リーダー養成（VAV指導者研修会）		
	<p>申込者総数 93人（ステップ1・4・7は各自で課題取り組み）</p> <p>資格取得者数 96人（前年度引き続き受講者3人、会員外4人含む）</p>		
実績	期 日	会 場	参加者
	<p>土曜日コース</p> <p>ステップ2 6月5日</p> <p>ステップ3 6月12日</p> <p>ステップ5 6月19日</p> <p>ステップ6 6月26日</p>	オンライン	40人
	<p>日曜日コース</p> <p>ステップ2 6月6日</p> <p>ステップ3 6月13日</p> <p>ステップ5 6月20日</p> <p>ステップ6 6月27日</p>	オンライン	18人
	<p>金曜日コース</p> <p>ステップ2 6月25日</p> <p>ステップ3 7月2日</p> <p>ステップ5 7月9日</p>	オンライン	35人

	ステップ6 7月16日		
--	-------------	--	--

事業名	リーダーへの支援
実績	<p>指導者研修（オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドボカシー活動を始めのために 期日：7月10日（土）19時～21時 参加者：34都道府県連盟151人 ・ アドボカシー活動の支援 期日：9月25日（土）19時～21時 参加者：29都道府県連盟98人 ・ GEリーダー育成 期日：2022年3月19日（土）19時～21時 参加者：32都道府県連盟150人

事業名	ガールスカウト 트레이ナー 認定講習会・審査会
実績	<p>期日：2022年1月9日（日）・10日（月・祝）（オンライン）</p> <p>参加者：プログラムトレーナー11人</p>

事業名	プログラムトレーナー認定審査会
実績	<p>期日：2022年1月8日（土）（オンライン）</p> <p>参加者：トレーナー候補者8人</p>

事業名	トレーナー養成・育成勉強会
実績	<p>期日：8月29日（日）13時～16時（オンライン）</p> <p>参加者：14都道府県連盟28人</p>

事業名	海外研修本部派遣（成人）
実績	<p>第37回世界会議（オンライン）</p> <p>期日：7月27日（火）～31日（土）20：00～23：30</p> <p>参加者：正代表2人、オブザーバー7人</p>
	<p>アメリカ連盟主催グローバルラウンドテーブル（オンライン）</p> <p>期日：9月10日（金）21：00～25：00</p> <p>参加者：2人</p>
	<p>ヘレン・ストロー セミナー2021（オンライン）</p> <p>期日：10月1日（金）～23日（土）</p> <p>参加者：1人</p>

	WAGGGSアドボカシーチャンピオン2022 活動期間：2022年1月～ 18カ月間 参加者：1人
--	---

事業名	リーダー養成講習・指導者研修
期日	年間
実績	リーダー養成講習 196回（43都道府県連盟で開催） 指導者研修 313回（321単位）（42都道府県連盟、日本連盟で開催）

事業名	リーダー養成講習・指導者研修 指導者派遣
実績	派遣なし

事業名	トレーナーへの支援
実績	ホームページ「トレーナー向け情報」随時更新 トレーナーメール 11回配信 トレーナー用Slack（オンラインビジネスチャットツール）開設

委員会名	成人トレーニング委員会
実績	16回開催（オンライン）

委員会名	戦略委員会：教育プログラム・指導者養成制度の総合的見直し委員会
実績	9月2日（木）から17回オンラインで開催 ・ガールスカウト教育で育む力の確認 ・現在のプログラムで不足している分野の確認 ・指導者の現状把握および、必要な力を確認

組織と運営

事業名	連盟長会議
実績	期日：11月20日（土）・21日（日）（オンライン） 参加者：都道府県連盟理事・監事 295人、 日本連盟 理事・監事 11人（計 306人） ※特別講演会「女性リーダーが切り開く未来」 講師：上智大学教授 三浦まり 参加者：連盟長会議参加者および 一般申し込み 約100人

事業名	新任連盟長研修
実績	期日：6月20日（日）（オンライン） 参加者：20人、日本連盟理事・委員7人

事業名	広報研修会
実績	団のSNS担当者を対象に、SNSの現状、運用、リスクと安全、効果的な発信方法について学ぶ研修をおこなった。 第1回（全4回）（オンライン） 期日：7月14日（水）、7月21日（水）、7月28日（水）、 8月4日（水） 参加者：110人（36都道府県連盟） 第2回（全3回）（オンライン） 期日：2022年1月21日（金）、2022年1月28日（金）、 2022年2月4日（金） 参加者：52人（24都府県連盟）

事業名	役職別カフェ
実績	期日：2022年2月23日（水・祝）（オンライン） 参加者：都道府県連盟 理事、監事 ①午後の部 61人 ②夜の部 52人 日本連盟理事・委員 10人

事業名	都道府県連盟への支援
実績	・首都圏4都県連盟とミーティングを実施し、首都圏の特性を踏まえた会員増（継続・新規）のための取組みについて情報共有および促進をおこなった。 期日：2022年3月1日（火）（オンライン） ・近畿地区6府県連盟とミーティングを実施し、組織運営・会員担当理事の役割についての情報共有および支援をおこなった。 期日：2022年3月8日（火）（オンライン） ・組織拡充のための理事等派遣 オンライン：滋賀県連盟、奈良県連盟、九州・沖縄地区

委員会名	組織・運営アドバイザーグループ
実績	4回開催（オンライン）

会議名	顧問会
期日	中止

会議名	評議員会
実績	期日：12月11日（土）（オンライン） 参加者：評議員8人、日本連盟理事10人、日本連盟監事1人

会議名	理事会・理事連絡会
実績	理事会 6回（オンライン）／理事連絡会 6回（オンライン）

会議名	理事研修
実績	9月4日（土）・9月5日（日）（オンライン）

会議名	監査
実績	5月4日（火・祝）（オンライン）

会議名	第93回定時総会
実績	期日：5月22日（土） 会場：ガールスカウト会館（オンラインでの議決権行使）

事業名	第37回世界会議 代表派遣
実績	期日：7月27日（火）～31日（土）20：00～23：30 会場：オンライン 参加者：正代表2人、オブザーバー7人 理事の交代参加あり

事業名	ガールガイド・ガールスカウト世界連盟書面表決 投票（2回）
実績	投票期間：6月16日（水）～7月14日（水） 11月10日（水）～12月8日（水） 投票方法：正代表1人がオンラインで投票

会議名	ガールスカウト推進議員連盟総会
実績	実施なし

事業名	地域支援事業
実績	実施なし

委員会名	戦略委員会：新しいガールスカウト活動のあり方を考える会
実績	6回（オンライン） ・9月より直接登録制度を導入 ・アドボカシー活動の第一歩として戦略コミュニケーション委員会の設置を理事会に提案 ・『Girl Scouts' News』など会員との情報共有のあり方を検討

委員会名	戦略委員会：財政・組織中長期戦略検討委員会 中短期課題解決部会
実績	部会6回、チーム会議13回（オンライン） ＊団、都道府県連盟の負担軽減のための施策 ・定年後のトレーナーによるキャンプ支援（モデル地区実施）の検討 ・ガールスカウトが大切にしていることを会員に伝えていく方法の検討 ・日本連盟表彰申請における県連盟の作業負担軽減に向けた検討 ＊レンジャー、ユース年代の活動促進に向けた施策 ・オンライン参加が可能な研修情報等のウェブサイト掲載 ・ユース年代の活動の情報共有と活性化のための方法を検討 ・レンジャーが参加できる機会・活動の多様化について検討

事業名	『Girl Scouts' News』の発行
実績	年2回、全会員対象に発行 vol.9 27,300部、vol.10 25,800部

事業名	事務局の強化
実績	グループを再編し、組織活性に関する部署を新設した。

会員

事業名	おやこでチャレンジ（秋入会促進事業）
	春の体験集会（春入会促進事業）
実績	235カ団が会員数を前年度末より増加

事業名	ガールスカウトの日の促進
実績	5月22日（土）を中心として5月に、全国で地域や一般の方に「ありがとうの輪」を広げる活動をおこない、各団のSNSや日本連盟の特設サイトにその様子を掲載した。

事業名	会員継続の支援
実績	<p>チラシの作成配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生6年生およびその保護者、中学3年生、高校2年生年代への継続呼びかけチラシ ・転居保護者向けチラシ
	<p>大学等入学試験にかかる推薦書、活動証明書の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・61件（20都府県連盟、42人）
	<p>会費助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災会員への支援：会費半額助成 51人、全額助成 316人（25都府県連盟） ・児童養護施設在籍の少女会員への支援：会費半額助成 36人（5カ団）
	<p>年長部門の会員継続を目指したガールスカウトカフェの開催（オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガールスカウトカフェVol.6 ～進路について聞いてみよう～ 期日：9月23日（木・祝）19時～21時 スピーカー（ユース年代）：11人 参加者：55人（シニア39人、レンジャー16人） ・ガールスカウトカフェVol.8 ～進路について聞いてみよう～ 期日：2022年1月23日（日）19時～21時 スピーカー（ユース年代）：4人 参加者：10人（レンジャー8人、ユース年代2人） ・ガールスカウトカフェVol.10 ～世界会議-シニア・レンジャー対象～ 期日：2022年3月12日（土）19時～21時 参加者：46人（シニア8人、レンジャー29人、40歳以上9人） 運営：第37回世界会議オブザーバーと2022-2023WAGGGS戦略計画 諮問ワークショップ参加者8人 ・ガールスカウトカフェVol.10 ～世界会議-ユース年代対象～ 期日：2022年3月13日（日）19時～21時 参加者：29人（レンジャー4人、ユース年代14人、40歳以上11人） 運営：第37回世界会議オブザーバーと2022-2023WAGGGS戦略計画 諮問ワークショップ参加者8人 ・ガールスカウトカフェ インターナショナル編全4回 参加者 延べ488人（8頁 インターナショナルキャンプ参照）

事業名	会員データベースの活用
実績	会員数増加取り組みのためのデータ、表彰参考データや県連盟のリクエストによるデータを提供

事業名	会員増のためのデータ分析
実績	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市立大学のデータサイエンティスト育成プログラム「YOKOHAMA D-STEP」と連携し、学生の課題解決実習としておこなわれた小学校低学年保護者を対象とする意識調査とチラシ配布調査に協力した（協力：東京都連盟、神奈川県連盟）。 上記調査の成果を生かし『団活動ヒント集』再編版を作成した。

事業名	日本連盟 表彰	
実績	功労章	桐章 10人、菊章23人、梅章38人
	永続奉仕章	70年 1人、60年 6人、50年45人、40年127人 30年 206人、25年 215人、20年 242人、10年597人
	団永続章	70年 7カ団、60年 19カ団、50年 25カ団、40年 20カ団 30年16カ団、25年 6カ団、20年9カ団、10年2カ団
	連盟永続章	50年 1県連盟
	ガールスカウト活動賞	3件

社会との関係

事業名	社会への発信のための全国活動
実績	<p><ガールスカウトの日> 期日：5月22日（土）を中心として5月に全国で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 特設ウェブサイトの開設 （「#ガールスカウトの日」「#ありがとうの輪」をつけて各地の活動を集約するウェブサイト） <p>期間：4月26日（月）～7月19日（月・祝） SNSによる有効投稿数 111件</p>
	<p><ガールスカウト夏チャレ> 期間：7月20日（火）～8月31日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> 特設ウェブサイトの開設 （「#ガールスカウト夏チャレ」をつけてチャレンジしているガールスカウトの姿を集約するサイト） <p>投稿数：100件</p>
	<p><女性に対する暴力をなくす運動> 期間：11月12日（金）～11月25日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ガールスカウト会館のパープル・ライトアップおよびパープル・ライトアップ施設のSNSへの掲載

<p><ワールドシンキングデイ> 期日：2022年2月22日（火） ・特設ウェブサイトの開設 （世界とつながるガールスカウトの姿を集約するサイト） 期間：2022年2月1日（火）～2月28日（月） SNS掲載数885件（海外連盟多数、Facebookのぞく） 世界から届いたワールドシンキングデイカード15件掲載</p>
<p><国際女性デーイベント> 国際女性デーイベント「私たちの世界、私たちの平等な未来」 期日：2022年3月5日（土） 開催方法：オンライン（YouTube Live） 対象：中学生以上 プログラム： 環境問題とジェンダー YouTube視聴数：最大115人 防災とジェンダー YouTube視聴数：最大123人 健康とジェンダー YouTube視聴数：最大105人</p>

事業名	KIZUNA Day
実績	2022年3月11日（金）前後に全国各地で実施

事業名	ガールスカウトのPR
実績	<p><SNS広告> 国際ガールズメッセ告知Facebook、Instagram広告 広告期間：9月24日（金）～10月2日（土） 対象：日本全国の18～60歳 目的：国際ガールズメッセ集客を図る 広告表示回数：101,102 リンククリック数：606</p> <p><プレスリリース> 年間配信数：10件 PR TIMES サイトビュー数 47,288PV、訪問者数 47,014</p>

事業名	広報資料の作成
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ 増刷なし、年間配布数部 15,328部 ・小冊子増刷なし、年間配布数 6,499部 ・アクティビティレポート2020 27,500部 ・2022年カレンダー 920部（広報分）

事業名	ホームページ等の運営
実績	<p><日本連盟公式ホームページの運営> アクセス数：712,005（昨年度比110%）</p>

	<p>訪問者数：345,701 人（昨年度比108.8%） 新規訪問者数：231,250（昨年度比112.7%） <日本連盟公式ブログの運営> サイトビュー数：48,147 PV 公開記事数：17記事</p>
--	--

事業名	SNSの活用
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ Facebookページ ガールスカウト日本連盟ページ 総リーチ数：116,566 ・ ガールスカウトStop the Violenceキャンペーン ページ 総リーチ数：1,196 ・ Girl Scouts of Japan KIZUNA Line ページ 総リーチ数：4,112 ・ Twitter フォロワー数：2,268（昨年度比70増） 総インプレッション数：198,751 ・ YouTube 総視聴回数：92,617（昨年度比 58%） チャンネル登録数：1,617人（昨年度比343増） ・ LINE 有効友だち数：3,956人（昨年度比593増） ・ Instagram フォロワー数：2,643人（昨年度比414増）

事業名	社会との連携
実績	<p><東京2020オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会への協力> 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に協力し、大会選手村で放映されるウエルカム動画の作成のため、ボーイスカウト日本連盟と分担し、参加国と地域、選手団の旗掲揚動画を撮影した。 掲揚した旗 105本 関わった旗手 300人以上（39都道府県連盟）</p>
	<p><文部科学省> 省庁連携事業「子ども霞ヶ関見学デー」オンラインブース出展協力 期間：8月18日（水）・19日（木） オンライン体験者：27人 スタッフ人数：4人</p>
	<p><内閣府男女共同参画局> 男女共同参画の最近の動きと第66回国連女性の地位委員会（CSW）について聞く会 日時：2022年3月10日（木）14：00～16：00 開催方法：オンライン 登壇者：永嶋里香（WAGGGSグローバルアドボカシーチャンピオン2022） 内容：アドボカシー活動について</p>
	<p><他団体事業（国際交流事業）への推薦> 内閣府青年国際交流は、世界的な新型コロナウイルス感染症まん延のため、</p>

すべての事業をオンラインで開催し、内閣府に直接応募する形式に変更となったことから日本連盟からの推薦者なし。

事業名	他団体との連携
実績	<p><ダヴとの連携> 内容：Free Being Me 大好きなわたし実施 4回 期日：8月12日（木）中高生インターンシップ（オンライン）185人 期日：10月29日（金）仙台医療福祉専門学校×葉王堂（対面）2回 協力：宮城県連盟 期日：12月26日（日）親子向け 北海道サツドラ（対面） 協力：北海道連盟</p> <p><日本女性学習財団> 脱120位！ジェンダー平等社会にむけて私たちができること～学校・教育から考えるジェンダー・バイアス～ 期日：11月12日（金） 登壇者としてSDG5委員1人</p> <p><国立女性教育会館> 学校における男女共同参画研修（オンライン） 期日：8月21日（土） パネリストとしてレンジャースカウト1人登壇 女性アーカイブ研修実践報告（オンライン） 期日：2022年1月28日（金） 報告者として職員1人</p> <p><プラン・インターナショナル・ジャパン> 日本で女性のリーダーが育つためには？教育が果たす役割を考える（オンライン） 期日：6月17日（木） 登壇者として成人会員1人</p> <p><日本女性財団> 人と地球に優しい政治を求めて ～私たちのウェルビライフ～（院内集会） 期日：8月25日（水） 会場：衆議院第1議員会館及びオンライン 事例発表者として職員1人登壇</p> <p><ボーイスカウト日本連盟> 第2回全国こども体験フォーラム 期日：2022年1月30日（日） 会場：キッザニア東京（パネルディスカッションはハイブリット） パネリストとして職員1人登壇 体験ブース運営 レンジャー2人、成人会員1人</p> <p><国立教育振興機構></p>

<p>職員対象ジェンダー研修 期日：2022年1月28日（金） 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 講師として成人会員3人</p>
<p><北九州ユースセンター> SDG5探究カフェ（オンライン） 期日：2022年2月27日（日） 講師として職員1人</p>
<p><Japan Dreamin'> 日本のSalesforceコミュニティが主催するカンファレンスイベントでオリジナルグッズ販売の寄付先として選定された 寄付額：128アイテム22,000円 寄付先として活動紹介するセッションへ職員1人登壇 イベント申込者数：414人</p>
<p><マイクロテクノロジーとの協働事業実施（STEM関連）> マイクロンメモリジャパン合同会社「女性リーダーネットワーク東京チャプター」主催スピーカーズセッション（オンライン） 期日：8月24日（火） 登壇者として成人会員4人 Girls Going Tech 特別イベント「AIとわたし～デジタル時代を生き抜く基礎知識～」（オンライン） 期日：2022年3月20日（日）・21日（月・祝） 参加者：シニア（中学1・2年生）53人 協賛：マイクロン財団 協力：広島大学 講師：マイクロンメモリジャパン合同会社 池原舞 広島大学准教授 川田和男 サポート：広島大学 学生17人</p>
<p><防災科学技術研究所（防災）> 国際女性デーイベント「私たちの世界、私たちの平等な未来」 期日：2022年3月5日（土）（オンライン） 参加者：YouTube視聴数：最大123人 KIZUNA Day特別イベント 親子防災科学教室 期日：2022年3月12日（土）（オンライン） 参加者：約200人（79組）</p>
<p><ケアインターナショナル・ジャパンとの協働事業> Walk in Her Shoesジュニアアンバサダー 期間：2022年3月8日（火）～5月31日（火） 参加者：レンジャー42人</p>
<p><教育協力NGOネットワーク（JNNE）> SDG4教育キャンペーン 期間：4月1日（木）～5月16日（日） ユースロビイングへの参加 シニア3人、レンジャー7人、成人2人</p>

	<p><人権教育啓発推進センター> 共催セミナー「性別で見る多様性と人権」(オンライン) 講師：ダイバーノン代表 飯田亮瑠 期日：2022年3月26日(土) 参加者：成人会員21人 *東京都連盟主管</p>
	<p><日本損害保険協会(防災)> 小学生のぼうさい探検隊マップコンクール 入賞：デジタルマップ特別賞1カ団、佳作2カ団</p>
	<p><環境省×東京都交通局(環境)> クールチョイス&スマートムーブへの協力 TVアニメ『デリシャスパーティ♡プリキュア』タイアップポスター掲出 報告数：17件</p>
	<p><NTT東日本、日本公衆電話協会(防災)> 教材申込1件(東日本1件、西日本0件)</p>
	<p><デートDV防止全国ネットワークとの連携> デートDVスプリングフォーラムへの協力</p>
調査	大学生調査の準備をおこなった

財政

事業名	ガールスカウト会館の管理運営
実績	ガールスカウト会館1階部分の賃貸事業の実施

事業名	戸隠ガールスカウトセンターの管理運営
実績	春期期間：4月24日(土)～7月9日(金) 利用者数：宿泊20人 日帰り97人 (利用グループ6グループ)
	夏期期間：7月16日(金)～8月29日(日) 利用者数：宿泊79人 日帰り71人 (利用グループ9グループ)
	秋期期間：9月1日(水)～11月8日(月) 利用者数：宿泊22人 日帰り92人 (利用グループ7グループ)

事業名	助成金の獲得
実績	29頁「民間助成金」参照

事業名	寄付金の拡大
実績	ネット募金 58,076円 アフィリエイト 342,564円

事業名	戸隠を想う日（6月8日）
実績	戸隠募金 1,788,858円

事業名	グッズ販売事業
-----	---------

事業名	賛助会員トレフォイルの集い
実績	期日：10月9日（土）（オンライン） 内容：新会員とグレードアップ会員の紹介、日本連盟事業報告、 賛助会員トレフォイル会計報告、交流会 参加者数：26人

委員会名	戦略委員会：財政・組織中長期戦略検討委員会
実績	4回開催（オンライン）

委員会名	ファンドレイザーグループ
実績	2回開催（オンライン） 賛助会員、賛助会員トレフォイル、マンスリー募金の寄付推進

民間助成金

助成団体	事業名
一般社団法人霞会館	国際ガールズメッセ
独立行政法人国立青少年教育振興機構（子どもゆめ基金）	国際ガールズメッセ GIRLS CHALLENGE CAMP
株式会社日能研	コミュニティアクション チャレンジ100アワード協賛金
Micron Technology Foundation, Inc.	Girls Going Tech 特別イベント 「AIとわたし～デジタル時代を生き抜く基礎知識～」

世界連盟への寄付（2022年3月末時点）

寄付金名	金額
国際友愛基金	1,411,705円
サンガム指定寄付金	321,308円

他団体役員等就任状況

団体名	役職名
内閣府・男女共同参画推進連携会議	議員
文部科学省・独立行政法人青少年教育振興機構の評価等に関する有識者会議	委員
独立行政法人環境再生保全機構	地球環境基金運営委員会委員
独立行政法人国立青少年教育振興機構 体験の風をおこそう運動	推進委員会委員
	企画推進チーム委員
公益社団法人国土緑化推進機構	緑の募金運営協議会委員
	緑の少年団表彰審査委員会委員
公益社団法人日本キャンプ協会	理事
公益財団法人日本ユニセフ協会	顧問
公益財団法人ハーモニィセンター	評議員
一般財団法人日本ユースホステル協会	評議員
社会福祉法人中央共同募金会	評議員
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	副代表理事
特定非営利活動法人開発教育協会	理事
文部科学省委託事業「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」	全国こども体験活動推進委員会委員